



生きものの“つぶやき”：
「大きくなったわね・・・」

エッセイ：

2025年6月10日、ピューマのニーナはお母さんになりました。子どもたちは生後4か月を迎えて元気いっぱい。ニーナのお母さんぶりについてはSNSを通して知っていましたが、その愛情の深さは聞いていた以上でした。子どもたちのじゃれ合いが白熱してくると絶妙なタイミングで止めに入る。カラスの鳴き声に怯える子どもに寄り添う。とにかく常に子どもたちを見ているのです。その“まなざし”は美しく優しく慈愛に満ちていました。「あれぐらい動くようになると大変よね」「お母さん、眠そうだけどよく見てる、えらいね」「みんな、こんなに元気に大きくなって」・・・これ、一緒に来園していた母のつぶやきです。まるでニーナの心の中を代弁しているかのよう。そういえば、遅い反抗期がやってきた私がこうして母と出かけるのは久しぶり。「いつかこの子たちも巣立っていくのね」と寂しそうに言う母を見て、親孝行しないとな・・・と少し反省した私でした。(399字)

生きものの紹介：

ピューマ（学名 *Puma concolor*）食肉目ネコ科

北アメリカから南アメリカ大陸にかけて、草原・森林・高山・海岸付近など様々な環境に生息。ウサギやヘビ、鳥などの小さい動物の他に、シカなどの大きな動物も捕食する。体長100～190cm、体高60～90cm、体重35～110kg、尾長60～90cm。

撮影場所・日時：

盛岡市動物公園 ZOOMO 2025年10月19日

応募者の自己紹介：

1. 氏名：倉原 沙弥
2. 高校・学年：岩手県立盛岡第一高等学校・1年

審査員からのコメント：

絶妙なタイミングをとらえた写真とつぶやきのマッチングが秀逸
母親ピューマの優しいまなざしをよくとらえています



生きものの“つぶやき”：
「笑えないときもある」

エッセイ：

この日は朝からどんよりとした天気だったが、中学時代の友達と久しぶりに会えるということもあってウキウキ気分で来園した。雨が降り始めたが、それでも話に花を咲かせながら鳥類エリアを歩いていくとしょんぼりした顔の鳥が。ワライカラセミの笑子ちゃん？あれ？なんだか元気がないように見える。どうしたの？人が少なくて寂しいのかな？雨のせい？友達とそんな言葉を交わしながら考える。そんなときもあるよね。高校に入学してから毎日が忙しく過ぎていく。新しい友達もできたし、学校も楽しい。それでもふと、中学の友達を思い出してすごく会いたくなることがある。笑子ちゃんだって笑えないときもあるのだろう。後日また笑子ちゃんに会いに行くと「ウヒヤヒヤヒヤ！ホッホッホッ！ウヒヤーウヒヤヒヤヒヤー！」と元気いっぱい声高らかに笑っていた。それを見てドン引きしている小さい子どもたちの様子にわたしも笑みがこぼれた。(387字)

生きものの紹介：

ワライカワセミ（学名 *Dacelo novaeguineae*）ブッポウソウ目カワセミ科

オーストラリアの東部や西部、タスマニア島に分布し、主に森林や低木地に生息。昆虫、カエル、ヘビ、ネズミなどの小動物を捕食。尾羽の色が褐色の個体がメスで、淡い青色をしたものがオス。鳴き声が人の笑い声に似ていることからこの名が付けられたと言われている。全長 40～50 cm。

撮影場所・日時：

盛岡市動物公園 ZOOMO 2025 年 10 月 12 日

応募者の自己紹介：

1. 氏名：倉原 沙弥
2. 高校・学年：岩手県立盛岡第一高等学校・1 年

審査員からのコメント：

絶妙なタイミングをとらえた写真とつぶやきのマッチングが秀逸。2 作品ともに選んだがどちらかはぜひ受賞を
ワライカワセミのちょっと困ったような表情が何とも言えません